参考資料２

本県の教育についての各関係者との対話（意見交換）

第３期教育大綱・第４期高知県教育振興基本計画の内容の実効性等を高めるため、
以下のような教育の当事者・関係者の方からご意見をいただく取組を実施。

教育の当事者・関係者

▶実施済み（令和７年10月23日時点）

- 高等学校・特別支援学校高等部生徒　「次世代総合教育会議」
- 中堅教職員（教諭・養護教諭）
- コミュニティ・スクール関係者〔小学校〕

▶今後の実施予定

- PTA役員
- 中堅教職員（学校事務職員）
- コミュニティ・スクール関係者〔高等学校〕
- 経済界の代表者（キャリア教育に関して）

対話 高等学校・特別支援学校高等部の生徒

令和７年度 次世代総合教育会議〔令和７年７月25日開催〕

県内の高校・特別支援学校高等部から委員として生徒６名に参加いただき、「次世代総合教育会議」を開催しました。
高校生の委員から「自分の未来・夢について～高知家の生徒一人一人の夢を実現するために理想的な学校・教育とは～」のテーマで発表いただき、委員同士や知事、県教育長、教育委員と意見交換を行いました。

窪川高等学校
羽屋戸　委員

- 私の**将来の夢は、小学校の先生**。緑が多く人が温かい窪川で働きたい。
- 私が思う高知県の教育課題は２つ。自分で考え行動する経験が少ない点と具体的に考える機会が少ないという点。そこで、自分で課題を設定して解決していく**「プロジェクト課題」を増やしたり、職場体験など将来の仕事をイメージできる教育**を広げてもらいたい。

A 小学校でとてもいい先生にも巡り合えた。そのような先生になって自分も子どもを助けたいと思ったのがきっかけ。

Q 先生になろうと思ったきっかけは？

- 私たちの夢を実現するために学校の授業や行事は必要だ。しかし、先生に相談できる時間が取れない現状がある。
- 将来の夢のため、アルバイトをしてみたいが校則で制限がある。
- **10年後の学校は、悩みを友だちや先生に話しやすい学校になったらいい。**
私たちの後輩が楽しく元気に挨拶できる、今のように先輩も後輩もみんながお互いを思いあえる、生活しやすい学校であってほしいと思う。

日高特別支援学校高知みかづき分校
奥村　委員

Q 働いて感じたやりがいは？

A いろいろ作業をしているうちに、失敗やミスが起こるけど、それをそのまま放置するのではなく、自分でその後振り返りをして、次はどうしたらいいのかということを前向きに考えながら、次の仕事に立ち向かうことにやりがいを感じている。

日高特別支援学校高知みかづき分校
西内　委員

対話　高等学校・特別支援学校高等部の生徒

令和７年度 次世代総合教育会議〔令和７年７月25日開催〕

伊野商業高等学校
藤本　委員

- 本来義務教育でない高校に義務感を感じて通っている生徒が多い。**生徒一人一人が課題を見つけ、目標を少しずつ達成する授業**を行えば、授業が魅力的になり、**義務感ではなく自ら学びに参加するという生徒の意識改革につながる。**
- 高校生自身も成長し、未来への可能性が広がっていくような教育、例えば高知県の地域課題の解決に、高校生が密接に関わっていくなどの学習が必要。
- **学校は、楽しい場所であり、自ら学校に行きたいから今日も行きたいと思える学校**が、理想的な学校の姿と思っている。

- 高校生活はとても楽しいが、目の前のことに追われ、夢をじっくり考える時間が足りない。
- フィンランドやタイでは、アウトプットできる授業があり、自由時間も多い。**もう少し自由時間のある高校生活が送れるようなカリキュラムにしてほしい。**
- 記述式の試験ばかりではなく、クラスメイトや先生と**ディスカッションをするような時間を多く設けてほしい。**

土佐女子高等学校
前田　委員

Q フィンランドの教育で一番魅力的に感じたことは？

A 夏休みが2カ月あるので、自分の興味のあることにチャレンジする期間になり、自分の夢や将来につながりそうなものを探すことができる。

岡豊高等学校
山下　委員

- 芸術コースは生徒数が少なく、いい練習や作業につながらず、自己成長がしにくいと感じる。また個人で練習できる場所も少ないし、**生の演奏や絵画に触れる機会もとても少ない。**
- 県外の高校生と交流し、様々な表現と触れ合うことで、自分の価値観に変化が生まれたり、視野が広がると思う。また、**生徒一人一人の可能性を引き出す教育、学校の中にとどまらず世界とつながる学び、知識だけではなく好きや関心が社会と結びつく環境が理想。**

対話　中堅教職員（教諭、養護教諭）

〔令和７年８月18日開催〕

中堅の教諭、養護教諭５名に参加いただき、３つのテーマについて、日頃考えていることや実践していることなどについて、県教育長と意見交換を行いました。

子どもたちにどのような力を身に付けさせたいか

❑**自己決定できる力が必要**。総合的な学習の時間に町をよくするためにどんなことができるかを考えている。

❑子どもに学習の方法やペースを任せるような学習をしたところ、意欲的な姿を見せた。子どもにとって、自分が自ら選択したり、決定するということは大切。

❑自ら一歩踏み出しにくい子どもがいる。**いい塩梅、折り合いの付け方を身に付けさせたい。**

❑**自分を表現するため、相手のことを理解するため、コミュニケーション力が必要。**いろいろな経験をすることで好き嫌いが直接的にわかることがある。

若年教職員への支援など、学校組織づくりに向けて心がけていることは

❑**任せることを大切にしている。**細かく言わず、信じて任せている。

❑**周りにいつでも話ができる状態、関係づくりはすごく大事。**話しやすい存在になれたらいいと思っている。

❑わからないことを頼まれ、わからないままやって失敗した経験がある。若年教員には、**できるだけ具体的に伝える**ようにしている。

❑**一人は無力ではなく微力であるからみんなを巻き込んでやろうと意識的にやっている。**変化に気付き、伝えるようにしている。

❑ 忙しい時期に、あえてバレーなどで交流の時間をとったら、結構好評。

地域（学校外）との連携をどのように考えているか

❑外の研修に積極的に行くことが大切。**そこで知り合った人との繋がりが活きる。**

❑**リアルを学ぶという意味でも地域との連携は非常に重要。**地域学校協働本部事業の予算は大変大事。

❑若年教員より水泳に対する不安の声を聞く。**専門性の高い外部の方**が入ってくれるとありがたい。

❑部活動に外部から人材が来てくれると、専門外の教員にとっても、人間関係の面でも子どもにとってもよいと思う。

教育長メッセージ

❑大変な面もあろうが、前向きに考え実践されていることに対して、尊敬し感謝している。
❑若年教員に声をかけるのが管理職と中堅教員では反応が違うと思う。学校運営に中堅教員と管理職との関係性は重要。
❑ワークもライフも楽しんでもらいたい。県教委としても皆さんが集中して仕事ができる環境を考えていく。

対話 コミュニティ・スクール関係者〔小中〕

いの町立伊野小学校〔令和７年９月17日開催〕

今年度初めて、コミュニティ・スクール関係者との対話を実施しました。学校運営協議会の取組による成果や変容や本県がすすめるキャリア教育とコミュニティ・スクールの連携について協議を行いました。

【参加者】民生委員、PTA会長、地域ボランティア、放課後学習支援員、学校長、教頭、地域コーディネーター、地域学校協働活動担当等

山間部の小さな学校にいたが、職業として校医と公務員と先生しか見たことがない子もいる。**本物に少しでも触れるような都会的な体験をデジタル上でできたらと思う。**色々な仕事を生で見る機会が多い方がいい。

以前、高校でキャリアの話をする機会があり、**どんな職業を選ぶか、より、どのように暮らしたいか、を大事に考えてほしい**と伝えた。職は手段であり、人生が様々に変わっていく中で選んだらいい。小学生からこういう考えを身につけてもらいたい。

この場で学校運営や教育に対するアプローチ等を教えてもらい、毎回深い学びになっている。**先生方がここまで色々考えてやっていることを他の保護者にも周知したい。**

大黒様の大祭では、子どもたちが舞を舞う。地域の人たちと一体となって行う大祭は、いの町の子どもでよかったと思えるきっかけになる。**地域に根差した行事があることはいの町の強み。**

将来、小学校の先生になりたいという高校生がいる。ところが、親族から小学校は大変だから中学か高校にしたらどうか、と言われているという話を聞いた。**小学校教諭のメリットややりがいなどを子ども以外にももっと発信していってはどうか。**

いの町で子育てしたいと思い帰ってきた。地域性なのか、様々な人が気軽に話しかけてくれ、**地域で子どもたちを見てもらっているという安心感がある。一度外へ出たからこそ、さらにわかる自然や人の温かさを感じている。**

【教育長コメント】

キャリア教育が少し硬いイメージになってしまっているのかもしれない。職業的なものだけでなく、学習を通して郷土や地元を理解し、そして誇りや愛着をもって愛していく。小さい時からの様々な経験や人の温かさに触れることで、いつか大人になると帰ってきたいと思うようにもなる。そういったこともキャリア教育の大事なところ。